

(僧帽弁閉鎖不全症における経食道心エコー3D解析を用いた僧帽弁形態の評価) に関する研究 のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 30 年 03 月 07 日 ~ 平成 31 年 03 月 31 日

〔研究課題〕

僧帽弁閉鎖不全症における経食道心エコー3D解析を用いた僧帽弁形態の評価

〔研究目的〕

MR 手術症例を対象に、Carpentier 分類の各分類間における術前の僧帽弁形態の相違について、3D-TEE の解析結果から比較検討を行うことです。さらに、今後の課題を得ることです。

〔研究意義〕

僧帽弁閉鎖不全症(Mitral Regurgitation, 以下 MR と略記)の術前に僧帽弁の形態を評価する上で心臓超音波検査は不可欠です。装置や解析ソフトウェア等における著しい技術の進歩により、経食道心エコー(transesophageal echocardiography, 以下 TEE と略記)の three-dimensional(以下 3D と略記)画像の質が向上しました。このことにより two-dimensional(以下 2D と略記)心エコー図法では評価困難であった複雑な僧帽弁の形態の測定が可能となりました。僧帽弁弁膜症手術の術式を決定する際には、弁尖の動きにより病因を分類した Carpentier 分類を使用します。しかし、これまでに僧帽弁形態が Carpentier 分類毎にどのように異なるかを述べた研究はありません。

〔対象・研究方法〕

- ・ 対象：2013 年 1 月から 2015 年 12 月に僧帽弁弁膜症手術を施行した症例のうち、術前に 3D-TEE を施行したすべての症例。
- ・ 研究方法：本研究は後ろ向き観察研究です。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属病院 心臓血管外科学

〔個人情報の取り扱い〕

本研究に係わる全ての情報の取り扱いには被検者の秘密保護に最大限配慮します。個人情報をデータ化する際は、患者氏名及びカルテ番号を被検者識別コードに変換します。この際、個人情報との連結表であります「匿名化番号対照表」のデータファイルを作成し、情報管理責任者が厳重に管理し、試験データの照会時のみに用いられます。研究の結果を公表する際は、被検者を特定できる情報は含まれません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 下川智樹

研究分担者: 尾澤直美 (帝京大学医学部心臓血管外科学講座助教)

住所: 〒173-8606 東京都板橋区加賀 2-11-1 帝京大学医学部附属病院 心臓血管外科

TEL: 03-3964-1211 (代表) [内線 32633]